



「時間」の流れ

学園長 鈴木 元

先日、大戸小学校、武蔵岡中学校それぞれで卒業式が行われました。今年は、ゆくのき学園開校 10 周年の節目の年でもありました。その卒業式で、小学校、中学校ともに「時間」についてお話をしました。一部抜粋し、紹介いたします。

<中学校式辞>

皆さんは、「時間の流れは、誰にでも平等であり、変化しない。」と聞いていませんか。もしかしたら、時間は変わらないという常識にとらわれているかもしれません。

私は学生時代、物理学を専攻していました。私が物理学を学ぶきっかけとなった有名な物理学者がいます。アインシュタインです。アインシュタインは、特殊相対性理論という論文の中で、「物体の時間の進み方は遅くなることがある。」と解き明かしました。それまでの物理学の常識では、「時間」そのものは不変であり、変化しないとされていました。しかし、現在の物理学では、条件によっては、時間の流れは、早くもなるし、遅くもなるとされています。光の速さに近い乗り物を想像してください。その乗り物の中の時間の進み方は、その乗り物の外の時間の進み方よりもかなり遅くなります。いわゆる浦島太郎現象です。ここまで時間の流れが大きく変わってしまう乗り物は、まだ開発されてはいませんが、このことは、科学的に実験でも証明されている事実です。

「信じられない。」と思う人もいるでしょう。おそらくこれまでの経験だけで得た「常識」に囚われています。私たちは、日常生活で、「時間の流れの変化」を感じることはできないので、「時間」は変わらないと考えてしまっているのです。

<小学校式辞>

19 世紀、フランスにポール・ジャネという哲学者がいました。彼は、「人生のある時期に感じる時間の長さは、年齢に反比例する。」ということを発表しました。これがジャネの法則です。簡単に言うと1歳の赤ちゃんにとって、1年は、人生そのものですが、皆さんにとっての1年は、人生の12分の1です。50歳の人にとっては、50分の1になります。同じ1年でも人生に対する割合が変わっていくのです。これから先、年齢や経験を重ねていけばいくほど、これまで以上に時間の流れが速く感じるようになります。今感じている中学校生活3年間は、予想以上に短く感じるはずですよ。「時間」は有限であり、取り戻すことはできません。そして、どんどん加速していくと思ってください。中学校生活の貴重な3年間でいかに過ごすか。その時間をどう使うかしっかりと考えてほしいと思います。

中学校では、「時間」の話から、自分もっている「常識」を疑うということをお話しました。固定概念に囚われることなく、学び続けてほしいというメッセージを届けました。小学校では、「時間」そのものの大切さについて、お話をしました。「時間」という一つの題材においても、発達段階で捉え方が変わります。また、考えてほしい内容が変わってくるものです。発達段階に応じて、様々な見方・考え方をすることができるよう、これからも授業や学校行事等の教育活動を通して、子供たちに全教職員で伝えていきます。

最後になりましたが、今年一年、保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に御理解・御協力をいただき、誠にありがとうございました。今後とも本学園への変らぬ御支援をよろしくお願い申し上げます。